

令和5年度  
舞台芸術等総合支援事業  
( 劇場・音楽堂等機能強化総合支援 )

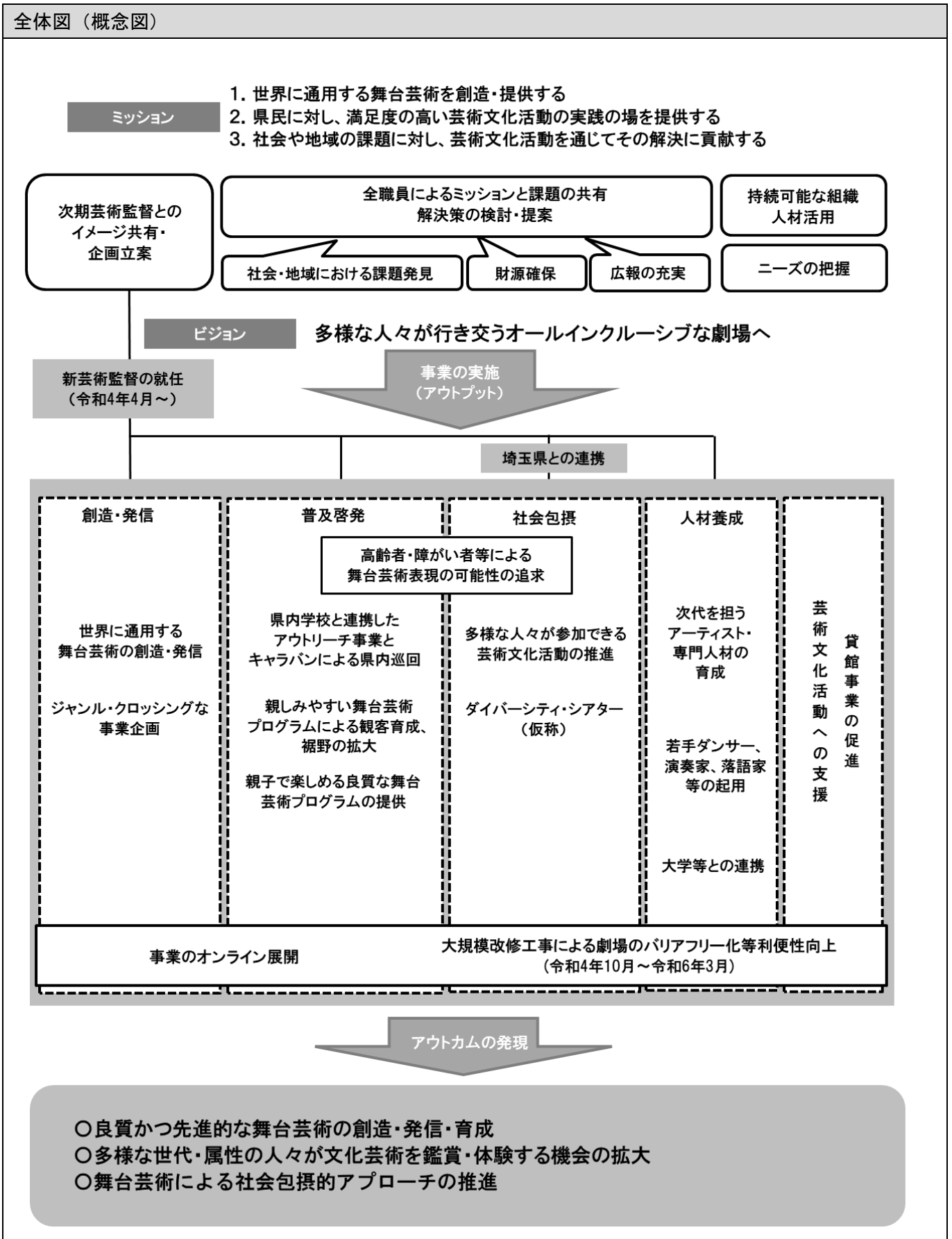
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
施 設 名	彩の国さいたま芸術劇場
助 成 対 象 活 動 名	新芸術監督体制への移行～多様な人々が行き交うオールインクルーシブな劇場へ～
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	43,674 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



## (2) 令和5年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	はえぎわ×彩の国さいたま芸術劇場『マクベス』	2月17日(土) ～3月3日(日)	潤色上演台本・演出：ノゾエ征爾 出演：内田健司、川上友里、山本圭祐、村木仁、町田水城 他	目標値	2,665
		東京芸術劇場シアターイースト、小ホール		実績値	2,304
2	バットシェバ舞踊団	1月26日(金) ～28日(日) ※中止	イスラエル情勢の悪化により公演中止。	目標値	2,037
		埼玉会館 大ホール		実績値	0※
3	バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》	12月17日(日)	出演：鈴木優人(指揮)、バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽) 他	目標値	1,021
		埼玉会館 大ホール		実績値	1,050
4	NHK交響楽団 梅田俊明(指揮) 戸澤采紀(ヴァイオリン)	11月5日(日)	出演：梅田俊明(指揮)、戸澤采紀(ヴァイオリン)、NHK交響楽団(管弦楽)	目標値	1,111
		埼玉会館 大ホール		実績値	1,230
5	出張！ワークショップ・アラカルト	7月17日(月祝)～ 12月17日(日)	講師：近藤良平、チャンキー松本、なかもとまさお、川村亘平斎、武徹太郎、林家彦三 他	目標値	160
		おふるcafé 白寿の湯 他		実績値	306
6	人材養成事業(岩松了劇作塾)	8月20日(日)～3月31日(日) ※一部中止	講師：岩松了 [スペシャルトーク]出演：濱口竜介、岩松了	目標値	10
		埼玉会館 会議室 他		実績値	96※
7	さいたまダンス・ラボラトリー企画 Noe Soulier『The Waves』公演	3月22日(金) ～3月30日(土)	[ワークショップ]講師：ノエ・スーリエ、船矢祐美子 他 [公演]振付：ノエ・スーリエ、出演：ステファニー・アムラオ 他	目標値	20
		大稽古場、大ホール		実績値	17
8	彩の国さいたま寄席～四季彩亭	4月22日(土) ～3月3日(日)	出演：三遊亭小遊三、柳亭小痴楽、春風亭昇吾、三遊亭遊かり 他	目標値	8
		埼玉会館 小ホール		実績値	16
9	舞台技術講座	8月25日(金)～8月27日(日) ※一部中止	講師：彩の国さいたま芸術劇場技術スタッフ	目標値	150
		埼玉会館 大ホール		実績値	31※
10	大学等との連携	通年	当財団職員	目標値	45
		彩の国さいたま芸術劇場 他		実績値	83
11	コンドルズ埼玉公演 2023 新作『POP LIFE』	5月27日(土) ～5月28日(日)	構成・振付・演出：近藤良平 出演：コンドルズ	目標値	1,358
		大ホール		実績値	1,736
12	光の庭プロムナード・コンサート	10月7日(土)、 3月23日(土)	出演：大塚直哉(オルガン)、中山美紀(ソプラノ) 他	目標値	200
		川越南文化会館ロビー、光の庭		実績値	424
13	MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！	6月20日(火)～ 12月5日(火)	出演：野尻小矢佳(打楽器)、新崎誠実(ピアノ) 他	目標値	180
		寄居市立用土小学校 他		実績値	475

14	MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！	6月30日(金)～ 12月4日(月) 北本市立西中学校 他	講師：岩淵多喜子、藤田善宏	目標値	350
				実績値	510
15	パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム	4月23日(日)～ 3月24日(日) オンライン	講師：小山久美 アシスタント：スターダンサーズ・バレエ団	目標値	200
				実績値	386
16	バリアフリー・セミナー	11月24日(金) 埼玉会館 ラウンジ、 オンライン	講師：山上庄子、蒔苗みほ子、田中正子、長谷部史織、駒井由理子	目標値	150
				実績値	58
17	親子で楽しめる舞台芸術作品の提供事業（めにみえない みみにしたい）	7月16日(日)～ 7月17日(月祝) 埼玉会館 大ホール舞 台上	作・演出：藤田貴大 出演：青柳いづみ、伊野香織、仲宗根葵、成田亜佑美	目標値	378
				実績値	471
18	親子で楽しめる舞台芸術作品の提供事業（カラフルパズル）	8月5日(土)～ 8月6日(日) 東松山市民文化セン ター 他	出演：ダンセマ・ダンス・シアター	目標値	216
				実績値	211
19	埼玉回遊	6月8日(木)～ 3月10日(日) 彩の国さいたま芸術 劇場 他	[リサーチ]近藤良平 他 [公演]構成・演出：近藤良平、出演： 埼玉回遊で出会った県民 他	目標値	904
				実績値	2,328

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。
<p>令和4年10月から彩の国さいたま芸術劇場が大規模改修工事に伴う長期休館に入り、令和5年度は令和6年2月まで拠点とする劇場を欠いた困難な状況ではあったが、東京芸術劇場でのツアー公演も敢行した事業番号①「はえぎわ×彩の国さいたま芸術劇場『マクベス』」、埼玉会館における③「バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》」④「NHK 交響楽団 梅田俊明（指揮）戸澤采紀（ヴァイオリン）」⑪「コンドルズ埼玉公演 2023 新作『POP LIFE』をはじめとした、当劇場ならではの良質な舞台芸術プログラムを提供した。また、休館を逆手にとって、県内公共文化施設での公演事業や、県内を巡回するアウトリーチ事業を精力的に展開したが、とりわけ⑭⑮「親子で楽しめる舞台芸術作品の提供事業」を通じて「親しみやすい舞台芸術プログラムによる観客育成、裾野の拡大」「親子で楽しめる良質な舞台芸術プログラムの提供」を推進し、また「キャラバンによる県内巡回」と位置付けた⑰「埼玉回遊」では、成果公演に会場した42%の観客が初めて劇場に足を運んだという結果が得られ、県文化を掘り起こし舞台芸術による新たな解釈を付与することで、多くの人々の関心と共感を喚起することができたと考える。国際情勢（②）や事業の進捗の都合（⑥）等により一部事業また事業の一部が中止になったが、助成対象事業全体の入場者数・参加者数は約12,000人と、前年度に比して3分の1にとどまるものの目標値を達成し、休館という逆境にあっても着実に事業計画を推し進めることができたとして自己評価する。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p><b>文化的意義</b></p> <p>演劇の①「はえぎわ×彩の国さいたま芸術劇場『マクベス』」は、令和4年度に実施したワークショップから発展させ本公演としてブラッシュアップした企画であり、創造拠点としての当劇場の機能を存分に発揮して良質の作品を創造・発信することができた。また音楽では、③バッハ・コレギウム・ジャパンや④NHK 交響楽団などトップクラスの楽団による公演を継続して実施した。舞踊ではイスラエル情勢の悪化に伴い②「バットシェバ舞踊団」の招聘を断念したが、⑦「さいたまダンス・ラボラトリ企画」にはフランスの気鋭振付家を迎え、国際的にも通用する高いレベルで事業を実現したほか、⑪「コンドルズ」新作公演他の成果により近藤良平がニムラ舞踊賞に内定した（7月中旬発表）。これらのことから、県内及び我が国の文化・芸術の水準向上に寄与したと考える。</p> <p><b>社会的意義</b></p> <p>オンラインならではの利点を有効活用して継続した⑮「パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム」には、年間延べ400人近い患者さんが20都道府県から参加し、病気とともに生きる人々に芸術表現の喜びを届けることができた。また、⑯「バリアフリー・セミナー」を継続して実施しているが、今年度は新たにUDトークを活用したライブ字幕配信や手話通訳の導入にも取り組み、会場には障がいを持つ県民も来場して、劇場における鑑賞サポートの在り方について有益な意見交換が行われた。本事業計画では「多様な人々が行き交うオールインクルシヴな劇場」を目指しており、上記の取り組みには社会的意義が認められると自己評価する。</p> <p><b>経済的意義</b></p> <p>上述の通り、劇場休館によって総来場者数は前年度を下回り、直接的な地域経済への貢献度は低下したと考えざるを得ないが、新たな取り組みである⑰「埼玉回遊」では、農業や産業などを含めた地域文化を取り上げて魅力を発信することで、県内の中小事業者にも脚光があたる機会を創出した。回遊先からは、「埼玉回遊」をきっかけに「メディア取材が増えた」「（美術館やイベントの）来場者が増えた」「新規顧客が増えた」といったフィードバックが寄せられており、地域経済の活性化に貢献することができたとして自己評価する。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

#### 目標「トップクラスの舞台芸術作品の創作・発信」

公演事業として予定していた4事業のうち、1事業（事業番号②）が開催中止となったが、⑦の「さいたまダンス・ラボラトリ」の一環としてフランスの気鋭振付家による作品を上演した。また①では埼玉公演に加えて東京公演を行い、これらを加えるとトータルで5事業を実施して目標を達成し（目標5事業）、休館中であっても弛まなく創造・発信活動を推進した。①③④及び⑦のアンケート結果から、県外からの来場者比率は平均48.7%で、前年度の60.8%及び目標値の65%のいずれをも下回ったが、これは劇場休館により県内顧客の占める割合が多い埼玉会館での音楽事業を中心とした事業展開となった結果であると分析する。ただし①⑦については、それぞれ87.7%、68.6%と目標値を超えており、これらの事業に対する県外の観客からの注目度の高さがうかがえる。トップクラスの舞台芸術作品を鑑賞できたことに対する満足度は、①③④⑦いずれも95%を上回っており、実施公演への高い評価を得たと考える。

#### 目標「多様な世代の舞台芸術へのすそ野拡大」

⑪⑫では「子育て世代及び高齢者の鑑賞者の合計の割合：50%以上」を目標としている。⑪は毎年新作公演を続けながらダンスの鑑賞者層を切り拓いてきた実績があるが、50代を中心に対象世代で82.2%の来場を得て、幅広く浸透していることが伺えた。休館中に行った⑫の出張公演では94.3%、劇場再開後に実施した回では97.8%といずれも大きく目標を上回ったが、高齢者の来場が顕著であった。各事業が異なる世代へ訴求していることは意義あることと考える。⑰⑱については、子ども料金のチケット販売率が全体の40.9%を占め（目標は30%以上）、親しみやすいダンス・演劇の鑑賞体験を提供するプログラムとして評価されたことが認められる。劇場休館中でもあり、⑬⑭⑮のみならず多くの事業を劇場外（オンライン含む）で行い、目標値の20回を遥に凌ぐ数値を達成すると同時に、休館中ならではの普段リーチできない地域への働きかけが奏功し、とりわけ⑲の成果公演では42%が「初めて劇場に来た」と回答するなど、劇場の認知度向上にも寄与した。

#### 目標「時代を担う芸術家・舞台芸術の担い手の育成」

⑧では若手実演家を起用する目標（50%）を達成し、実演家のステップアップに寄与することができた。地域の大学や高校等と連携して行っている⑨⑩、また若手戯曲家・ダンサー育成を掲げる⑥⑦では、「今後の活動の役に立った」「芸術文化への興味・関心が深まった」の2つの指標を立てているが（目標70%以上）、いずれの事業も100%の回答を得られ、舞台芸術の担い手の育成にも資することができたとして自己評価する。ただし、⑥の成果発表及び⑨の一部を中止したことで、成果が限定的になったことは否めない。

#### 目標「多様な人々が参加できる舞台表現活動の推進」

⑤⑮の2事業を実施したが（目標は2公演（事業））、病気で孤立しがちな人々を対象に年間10回を実施した⑮に加えて、人材育成事業の⑤でも障がい者の参加が延べ28人を数えるなど、多様な人々に対して舞台表現活動に参加する機会を提供することができた。

#### 目標「バリアフリーの推進による鑑賞・体験機会の拡大」

⑮の対象者は健康弱者であるため対面開催は時期尚早と判断し、前年度に引き続きオンラインのみでの開催としたため、オンラインによる参加率は100%であった（目標値は50%以上）。参加者は申込数・当日接続数ともに前年度から若干の減少がみられたものの、前年同様20都道府県からの参加が得られるなど地域分布に広がりが見られており、オンライン活用の有効性を再確認する結果となった。⑯では「理解が深まった」割合で100%の回答が得られ、バリアフリーの推進に貢献したとして自己評価する。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

イスラエル情勢の悪化により、当該国を活動拠点とするカンパニーの来日及び舞台装置の輸送に不確実性が生じたこと、また国内における広報展開にことから、予定していた舞踊の海外招聘公演（事業番号②）をやむを得ず中止したが、⑦の一環として海外の気鋭振付家による公演事業を行うことで、当初の事業計画を年度内に補完することができたと考える。

⑥では講座は計画通り実施できたが、受講生の執筆がスケジュール通りの進捗を果たさず、成果発表として位置付けていたリーディング公演を中止せざるを得なかった。しかしながら、令和6年度にリーディング公演を実施することで素早くキャッチアップし、滞らせることなく事業計画を推進する予定である。

⑨の事業内容として申請していた「高校演劇スタッフ技術講習会」は、コロナ禍で中止となって以降、本年度も高校演劇連盟から開催の依頼がなかったため中止、また「さいたま舞台技術フォーラム」に関しては劇場再開後の3月に予定していたが、リニューアルオープン後に公演及び貸館事業が集中してしまい、スタッフの日程確保などスケジュール調整が難航し、当年度の開催を見送ることにした。

⑮は対面クラスとオンラインの双方での開催を想定していたが、受講者が健康弱者であること及び劇場が長期休館中であることを鑑み、オンラインのみで開催した。

国際情勢や受講者の状況といった不測の事態や休館による影響が見受けられたものの、概ね計画通りに進んでいると考える。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和5年度の助成対象経費の総額（本体事業）

（要望時）128,802,000円 - （決算時）99,944,435円 = （差額）28,857,565

各事業で増減があったが、上記のとおり減少の幅が増加幅を圧倒的に上回り、要望比77.6%という、効率性（事業費）の面では計画通りの進捗を遂げたとは言い難い結果となった。

大型の公演事業である②が中止となったことで18,557,000円の減額が生じ、また⑥における成果公演の次年度見送りにより5,163,304円が減額となるなど、やむを得ない事由での事業中止が全体の減額幅に大きな影響を与えたものと自己分析する。また劇場リニューアルオープン後の3月に申請事業のなかでも規模の大きな公演が集中したことで、①⑦⑨で最終報告の期日までに支払いが完了せず、対象経費を計上できない事象が発生した。

さらには、①⑨に関しては要望時に民間助成金の採択結果が出ておらず未計上であったが、その後、採択が確定したため、最終報告ではそれらを計上したことで19,657,900円の収入増が生じた。

支出・収入両面での要望時との乖離により、本年度は助成額が13,361千円という大幅な減額となった。この結果を真摯に受け止め、来年度以降は各種情勢や条件をより吟味したプログラムを立案し、効率性（事業費）の面でも十全な事業運営を目指していきたい。

## (4) 創造性

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

#### 演劇部門

○令和4年度をもって全37戯曲の完全上演を達成した「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は当劇場の看板事業でもあり、シェイクスピアをテーマとした街づくりにも寄与するなど、シリーズに限らず当劇場の特徴を作っている。休館開けの令和6年度からは「2nd（セカンド）」シリーズの始動が予定されている。

本年度はノゾエ征爾を演出に迎え、シリーズとはまた異なるシェイクスピアの魅力を発信した。【独創性】

○⑥「岩松了劇作塾」では、近年演劇界では質の高いオリジナル作品を書ける若手～中堅劇作家が少ないという問題に本格的に向き合い、演劇界の課題解決に取り組んできた。講師には岸田國士戯曲賞の選考委員であり、また自身も劇作家として毎年のように新作の発表を続ける岩松了を迎え、第一線で活躍する劇作家から劇作の基本的な考え方や実践的なテクニックを学ぶ機会を提供するもので、他に類をみない取り組みであると同時に先導的役割を果たすものであると考える。予定していたリーディング公演は来年度へ繰り延べとなったが、講座を通じて次代の演劇界を担う人材の育成に寄与することができた。【先導性】

#### 舞踊部門

○「ダンスのさいたま」は当劇場のもう一つの顔であり、開館以来、世界トップレベルの舞踊文化を発信してきた。本年度は②「バットシェバ舞踊団」の来日公演が中止となったが、フランスの気鋭ノエ・スーリエによる『The Waves』を招聘上演（⑦）した。同公演は「ダンスの歴史の流れのなかで、自分たちはいまどこにいるのかという立ち位置を、明哲に掘りさげようとするかのような秀作」（石井達朗評『ダンスマガジン』誌）と評され、【独創性】【新規性】【先導性】ともに優れた事業であったと自己評価する。

○継続して取り組む⑦「さいたまダンス・ラボラトリ」は若手ダンサー育成企画として定評を得てきたが、本年度はノエ・スーリエによる指導にアンサンブル・イクトゥスの生演奏も伴って、全6日間のインテンシブなワークを行った。実践教育のみならず、公演を通じて講師が創り上げる作品世界にも触れることで、より深い舞踊理解を促すというスキームは、上質の舞踊公演を提供する当劇場ならではの【先導性】に優れた育成プログラムであると自負している。

○埼玉会館に会場を移して開催した恒例の「コンドルズ」新作公演は、多目的ホールという舞台機構的には限られた条件のなかで創意工夫を凝らした良質な作品を生み出し、この公演の成果他により近藤良平がニムラ舞踊賞に内定（7月中旬発表）するなど卓越した成果をあげた。【独創性】

#### 音楽部門

○音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手までを幅広く起用し、多様なニーズにこたえる公演を実施している音楽部門では、休館中の本年度は、舞台も収容観客数も劇場より規模の大きな埼玉会館大ホールに適した演目を展開した。日本が世界に誇る古楽アンサンブル③「バッハ・コレギウム・ジャパン」は、平成11年に初登場して以来、毎年継続して公演を行っており、楽団と劇場がともに成長してきた経緯がある。平成28年度からは提携契約を結び、公演前の関連企画（指揮者自らによる曲目解説レクチャー等）を行うなど、普及啓発にも努めている。令和4年度からは劇場休館のため埼玉会館大ホールに会場を移して開催。「ヘンデル《メサイア》」というバロック音楽の名曲を本格的な古楽演奏で提示することで、作品への認識を新たにする機会を提供した。【独創性】

○また、埼玉会館では平成19年以来（平成27、28年の改修工事中を除く）毎年NHK交響楽団の公演（④）を開催しており、地域の文化水準向上を牽引するかたちで日本のトップ・オーケストラの演奏を身近に鑑賞できる環境を継続的に提供している。【先導性】



## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

○彩の国さいたま芸術劇場のリニューアルオープン第1弾として実施した事業番号①『マクベス』公演は、埼玉に先立ち東京芸術劇場（東京都）でも当劇場の主催公演として上演された。演劇の観客人口が圧倒的に大きい東京で公演を行うことで、多くの人々に作品が享受される機会が創出できた。東京公演のアンケート結果からは、普段当劇場に足を運ばない観客層（行ったことがない、ほとんど行ったことがないを合わせると実に67.4%にのぼる）に対してアピールできたことが伺え、また公演満足度でも95.7%という結果が得られた。近隣劇場での同一演目の上演は、動もすると観客を取り合うことになる。定石では考えられない攻めの事業展開によって、首都圏における当劇場の評価は一層高まったものとする。

○国内では「ダンスのさいたま」として定評のある当劇場であるが、令和4年度から継続してフランスの宝飾メゾン Van Cleef & Arpels から助成を受けている。同社が世界各国で展開するダンスへのサポート活動の一環であるが、本年度は⑦「さいたまダンス・ラボラトリ」が助成対象事業として選ばれた。同社がサポートする作品やプロジェクトは常に国際的な関心を集めており、そこに選定されることは、すなわち、当劇場の発信する舞踊文化が、世界的視座からも評価に値するものであると証明されたと言っても過言ではないだろう。またこのことを通じて、世界のダンス界での当劇場の国際的認知度や評価も向上したと考える。

○当劇場では継続して「親子で楽しめる舞台芸術作品の提供事業」に取り組んできたが、とりわけ⑩『めにみえない みみにしたい』は2018年の初演以来、全国の多くの劇場・公共ホールで上演を重ねており、本年度も埼玉会館での上演の後、全国10会場を巡演した。さらに令和6年度に事業化する親子向け演劇作品『死んだかいぞく』では国内7劇場への巡回が予定されており、来年度も引き続き、当劇場で制作する児童劇作品は全国の劇場から巡演を請われている。これはすなわち、⑩で示した作品の質や事業効率（事業費の妥当性）が高く評価された結果であり、「創造する劇場」としての価値を高めたものと自己評価する。

○本年度新たに立ち上げた近藤芸術監督による新規企画である⑪「埼玉回遊」は県内を中心に大きな関心呼び起こし、新聞掲載33件、テレビ放映14件をはじめとした多数のメディアによって紹介された。また、成果公演の来場者のうち42%が初めて当劇場に来場したと回答しており、本事業が劇場の認知度向上に大きく資する結果となった。公共劇場におけるアウトリーチ事業のモデルケースとしても注目され、全国公立文化施設協会が主催する研修の演題に選ばれて、近藤芸術監督が講師を務めた。また、県内からも「埼玉回遊」をテーマに講演を依頼されるなど、芸術文化を通じた地域振興の好例として独自の手法が高く評価されたものとする。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 経営・組織・人事

○当財団では平成 23 年 4 月 1 日で対象となる有期契約職員のうち向き契約への転換を希望した全員を無期契約化した。雇用の安定を図ることで、組織活動を持続的に発展する基盤ができた。

○令和 2 年 6 月 10 日付で加藤容一新理事長が就任し、財団・劇場がどのような方向を目指すべきかを再確認し事業計画に反映するため、全職員を対象に意見交換やアイデア募集を行った。その上で、本事業計画とは別に、財団の組織運営理念として「Art for Life - すべての人生に芸術を」を掲げ、ミッション、ビジョン、バリュー、ストラテジーを定め、全職員で共有した。この組織運営理念は本事業計画にも合致するものであり、持続的な組織活動発展の指針になると考える。

○令和 3 年 4 月 1 日から近藤良平が次期芸術監督として令和 4 年度以降の公演等について準備を進めてきたが、令和 4 年 4 月 1 日に芸術監督に就任した。事業計画を構成する様々な取り組みを実現していくにあたり、劇場として新芸術監督を中心とした運営体制が整った。

○令和 4 年 10 月から彩の国さいたま芸術劇場は約 1 年半の大規模改修工事に伴う長期休館に入ったが、休館中も埼玉会館の活用や劇場外での取り組みに注力することで、事業計画を遅延なく推進できたと考えている。

#### 財源確保

当財団は埼玉県 の 100%出資による公益財団法人であり、事業費の主な原資となっているのは指定管理料であるが、事業の安定的な運営のために民間助成金や協賛金等、外部資金の獲得に努めている。中でも 133 社（令和 6 年 6 月 1 日現在）あるサポーター企業からの協賛金（年会費：1 口 10 万円）の割合が大きいため、新規会員の獲得に向けた営業活動に力を入れている。また、より多角的な財源を確保すべく、企業だけでなく個人からの寄付金の獲得に向けた検討チームを立ち上げ、具体的な導入プランについて検討を進めている。

#### 広報・マーケティング

令和 3 年度に実施した「彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館等に関する県民意識調査」の結果、当劇場及び埼玉会館に対する意見として「知名度向上・情報発信」の向上が最も多かった。まだまだ知名度や情報発信が不足しているという結果を受けて、工夫を凝らした SNS 広報やブランドムービーの制作及び地域での展開、また近藤劇団監督の就任を契機に地元企業と連携して制作した企業ダンスは埼玉高速鉄道車内モニタ等でも放映されるなど、個別の事業広報だけでなくコーポレート PR の視点も取り入れた総合的な発信を行っている。これらの実施にあたっては、部署を横断した人材からなる広報チームを設置し、戦略的な展開を可能にする体制を整えた。なお、「県民意識調査」は次回、令和 6 年度に実施予定。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

本年度の全指標の達成度は 91.6%となっており、前年度の 70.6%を上回る成果をあげることができた。このことから、事業計画の 3 年目として持続的なアウトカムの発現や定着に向けて飛躍することができたと自己評価する。質・量ともに大きく減ることなく成果を上げ、また劇場の長期休館という逆境を好機ととらえ、近藤芸術監督のイニシアチブのもと新たに立ち上げた⑤「出張！ワークショップ・アラカルト」や⑩「埼玉回遊」を始め、地域に出向いて行う活動に精力的に取り組んできた結果であると考えている。